

反核・反戦・平和のつどい

4年生

～『一つの花』を通して子どもたちが感じた戦争についての思い～

一つの花

- 戦時中、父、母と暮らす幼い娘「ゆみ子」のお話。
- 戦時中の貧しい暮らしの中、ゆみ子が最初に覚えた「一つだけ」という言葉を中心に、両親のゆみ子に対する思いを中心として描かれている。戦時中と戦争後の場面の移り変わりがあり、時間の経過や様子の変化も表現されている。
- 子どもたちにとっては、昨年度のちいちゃんのかげおくりにつながる国語における戦争に関する教材である。

子どもたちが感じたこと①

- 戦争は人の命をうばってしまうので怖いと思いました。爆弾とかで死ななくても、食べ物がないことで死んでしまうこともあることを知って、怖くなりました。もう戦争は絶対起こらないといいです。
- お父さんが亡くなったり、家が焼けて住むところがなくなったり、小さな子も死んじゃったりするから戦争はとっても怖いものだと思った。

子どもたちの感じたこと②

- 戦争は人が焼け死んで日本が空っぽになってしまう。戦争なんかしないでもいいと思った。
- 戦争で人がどんどん死んでいくのは悲しかった。戦争が二度と起きないでほしい。
- 戦争はとても怖くて悲しいもの。戦争という大きなものの裏で、こんな悲しいことがいくつも起こっていることがわかり、もう絶対に戦争は起こってほしくないと思った。
- 毎日敵の飛行機が飛んできて爆弾を落とすとは思わなかった。戦争を生き抜いたゆみ子はすごい心の持ち主だと思った。二度と戦争は起きないでほしい。
- 戦争になった理由を知りたいし、お互いにわかり合うことも大切にしたい方がいい。

子どもたちの感じたこと③

- ぼくが保育園の頃から戦争は嫌だった。もし戦争が起こったらどうしようと今でも不安に思うときもある。なので戦争は嫌い。食べるものもお金も家もなくなるので。昔は戦争があったけれど、これからはずっと戦争がなく、平和にみんなで暮らせる世界になってほしい。
- 家族が帰ってこなかったり、亡くなってしまったりする戦争は怖い。やっぱり戦争のない平和に過ごせる毎日がいいと思った。

子どもたちの感じたこと④

- 今はお米があるのが当たり前なのに、戦争時代はお米はもちろん、食料なんて貴重な時代。今、食べ物が増えてきて良かったと思った。
- 戦争はとっても怖いと思った。戦争で食べ物をなくしてしまう人がいっぱいいるので、水や食べ物は大切にしたいと思う。
- 一つの花のときの時代は、キャラメルとかがなかったのがびっくりしました。飴とかキャラメルとかを僕たちは今普通に食べているけど、昔は食べられなかったんだと思った。今でも戦争があつたら食べられないかと思うと悲しい。

ご清聴ありがとうございました